

IBM Interact

バージョン 9 リリース 0

2013 年 7 月 31 日

リリース・ノート

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、31 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Interact バージョン 9 リリース 0 モディフィケーション 0、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Interact
Version 9 Release 0
July 31, 2013
Release Notes

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2013.9

© Copyright IBM Corporation 2004, 2013.

目次

第 1 章 システム要件と互換性	1	バージョン 8.5.0 の新機能と変更	20
第 2 章 バージョン 9.0.0 の新機能と変更 点	3	バージョン 8.2.0 の新機能と変更	22
第 3 章 修正された問題	7	第 7 章 IBM Interact Reports Package について	27
第 4 章 既知の問題	9	IBM 技術サポートへの連絡	29
第 5 章 既知の制約	13	特記事項	31
第 6 章 以前のリリースの新機能	17	商標	33
バージョン 8.6.0 の新機能と変更	17	プライバシー・ポリシーとご利用条件に関する考慮 事項	33

第 1 章 システム要件と互換性

IBM® Interact は、IBM EMM の製品スイートの一部として動作します。

Interact バージョン 8.5.0 以降から Interact 9.0.0 にアップグレードできます。詳しくは、「*IBM Interact* インストール・ガイド」を参照してください。

システム要件と互換性に関する完全な情報の参照先

この製品と互換性がある IBM 製品のバージョンのリストについては、「*IBM 9.0.0 Product Compatibility Matrix*」、および IBM Support Portal Web サイト (<https://www.ibm.com/support/entry/portal/documentation>) の「資料」の下に掲載されている、その他の製品互換性に関する資料を参照してください。

この製品のサード・パーティー要件のリストについては、Interact にログインして「ヘルプ」>「製品資料」から利用できるほか、IBM Support Portal Web サイト (<https://www.ibm.com/support/entry/portal/documentation>) からアクセスできる「*IBM Enterprise* 製品の推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」を参照してください。

第 2 章 バージョン 9.0.0 の新機能と変更点

Interact 動作イベント処理

Interact で、訪問者のアクティビティのパターン (イベント・パターン と呼ばれる) に基づいたオファーのパーソナライズができるようになりました。イベント・パターン (「動作トリガー」とも呼ばれる) を使用して、イベントまたはイベントのコレクションが対話の際に発生するかどうかをテストし、指定されたイベント発生パターンが満たされた場合に、その応答として 1 つ以上のアクションをトリガーするようにすることができます。

例えば、Web サイトでのイベントのパターンとして、アクセスされるページの任意の組み合わせ (ページにアクセスされる回数を含む)、ダウンロードされるドキュメント、表示されるメディア、および使用される検索語などが含まれる場合があります。別の例として、コール・センターで、対話の理由などのイベント、または対話の際に開始される実際のサービス要求 (住所の変更や製品の照会など) を使用して、アクションをトリガーするイベント・パターンを識別する場合があります。これらのすべてのイベントと一緒に取られて、特定の動作パターンを示します。それらのイベント・パターンにより、Interact セッションでアクションをトリガーできるようになりました。トリガーされたアクションに外部コールアウトが含まれる場合があります。

イベント・パターンの実装には、トリガー・イベント と呼ばれる機能も含まれます。トリガー・イベントとは、別のイベントまたはイベント・パターンによってトリガーされるイベントです。つまり、1 つのイベントが、そのアクションとして、別のイベントをトリガーすることができます。トリガー・イベントは、既に (Interact 内の「イベント」タブで) 定義されているイベントの場合もあれば、パターンの一部として認識され、指定されたアクションを持つイベントとして扱われるイベントの場合もあります。例えば、KitchenAppliancePageVisited イベントが発生する場合に、トリガー・イベント機能を使用することができます。このイベントによってトリガーされるアクションの 1 つとして、さらに KitchenRenovationsPageVisited イベントかその他のイベントが、その後続のアクションと共に発生するようにすることができます。

標準イベントとトリガー・イベントの両方をイベント・パターンの定義で使用することができます。イベント・パターンは、作成後、対話式フローチャートで使用できるようになります。

イベント・パターンをサポートするために実装されている変更を確認するには、対話式チャンネルの「イベント」タブを参照してください。

(RTC616, RTC716, RTC717, RTC718, RTC719)

オファー表示のランダム化

Interact の以前のリリースでは、「方法」タブの同じルール・グループの複数のオファーが同じスコアを持つ場合、Interact は最も低いオファー ID を持つオファーを返

していました。このリリースでは、Interact は同じスコアを持つオファーをランダム化するようになりました。これにより、複数の対話の中で同じオファーが訪問者に表示されることが少なくなりました。

オファー表示のランダム化はデフォルトで有効になっていますが、Interact ランタイム・サーバーの「Interact | offerserving | offerTieBreakMethod」構成プロパティで制御されます。(RTC621)

REST API サポート

Interact の以前のリリースでは、SOAP および HTTP を介した Java シリアライゼーションによってアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) にアクセスすることができました。このリリースでは、REST (Representational State Transfer) と呼ばれる業界標準のメッセージング・アプローチが Interact によって追加でサポートされています。Interact API によって使用される *RESTful* (REST 制約に準拠する) 実装により、HTTP を介して、構造化された JSON メッセージを、応答時間は速いのに小さい処理要件とリソース要件で交換することができます。

REST API には、固有の 2 つの Interact クラスがあります。1 つは RestClientConnector で、JSON 形式の REST によって Interact 実行時インスタンスに接続するヘルパーの役割を果たします。もう 1 つは RestFieldConstants で、API 要求および API 応答に使用される JSON メッセージの基礎となる形式を記述します。

Interact 設計時サーバーをインストールした後、サンプル REST クライアントが Interact_Home/samples/javaApi/InteractRestClient.java に提供されます。サンプル・コードは単純な例ですが、REST API の使用方法を示す開始点として役立ちます。

REST API クラスおよびその他すべての Interact API については、ランタイム・サーバーの Interact_Home/docs/apiJavaDoc にインストールされている Javadoc を参照してください。

(RTC721)

WSDL の変更

使用可能な Web サービスを記述するために使用される WSDL (Web Services Description Language) サポートが、Interact のいくつかのリリースを通して更新されました。最新の WSDL の情報については、ご使用の Interact のホーム・ディレクトリー内の下記の場所にある XML ファイルを参照してください。

- <Interact_home>/conf/InteractService.wsdl
- <Interact_home>/conf/InteractAdminService.wsdl

特に、次の変更点にご注意ください。

- 機能拡張が原因で、Interact 8.6.0.2 以降の SOAP API WSDL には、前のバージョンとの互換性がありません。
- Interact 8.6.0.3 の WSDL は、8.6.0.2 のものとは少し異なっています。しかし、8.6.0.2 の WSDL は、Interact 8.6.0.3 でも変更なしで機能します。

- NameValuePairImpl および必須の minOccurs パラメーター (relyOnExistingSession および debug など) に関連した特定の WSDL の変更点についてさらに詳しくは、フィックス・パック 8.6.0.2 および 8.6.0.3 の README ファイルを参照してください。

第 3 章 修正された問題

Interact 9.0.0 で修正された問題を以下の表にリストします。

問題 ID	説明
DEF052233、 DEF063147	「キャンペーン分析」ページまたは「分析」ページから「ヘルプ」をクリックしたときに、Interact のどのレポートのヘルプも表示されませんでした。ヘルプ・ウィンドウが開きますが、代わりに Campaign のレポート情報が記載されていました。 この問題はこのリリースでは解決されています。
DEF063100、RTC6953	Interact のアップグレード・スクリプトの実行で、コンソールに間違った情報が表示されていました。この問題は修正されています。
DEF063504	「アクティブな配置」リストが毎回最新表示されないために、ユーザーが対話式チャンネルのバージョンを複数回配置解除することができました。リストが毎回の更新で最新表示されるようになりました。
DEF063617	以前のリリースでは、オファー・ブラックリストまたはその他のテーブル駆動型の機能に対するオーディエンス・レベルの指定に大/小文字の区別がありました (つまり、定義されたときの大/小文字の区別と一致させてオーディエンス・レベル名を指定する必要がありました)。このリリースでは、すべてのテーブル駆動型の機能に関して、オーディエンス・レベルの大/小文字の区別がなくなりました。
VER00911	単一の Interact セッション内でオーディエンスの切り替えを実行した場合に、切り替え後、そのオーディエンス・レベルに対して正しくないオファーのリストが表示されることがありました。この問題は発生しなくなりました。
DEF063106	ときどき、対話式フローチャートの複数のテスト実行で (特に複数のユーザーによって同時に実行されたときに)、「メモリー不足」エラーになることがありました。これは、テスト・フローチャート実行の後でメモリーが解放されないために発生していました。このメモリー・リークは発生しなくなりました。
RTC9289、RTC7984	対話式チャンネルの「方法」タブで拡張ルールを編集すると、「式の解析中にエラーが発生しました: 式が空です (Error occurred while parsing expression: Empty expression)」というメッセージが表示されることがありました。拡張ルールの構文の検査中にエラーが発生していましたが、このリリースでは解決されています。
RTC7041	startSession 呼び出しの Interact API に渡されるパラメーター値が、getOffers API 呼び出しで考慮されないことがありました。その結果、拡張ルールの適用の際に、startSession 呼び出しの一部として渡される値の代わりに、プロファイル・テーブルの値がパラメーターで使用されていました。この問題はこのリリースでは解決されています。
RTC11445	対話方法で使用される、オファーに対して定義されたカスタム属性が正しく表示されないことがありました (特に、適格なセグメントに対してオファーが定義されていた場合)。この問題により、オファー属性の重複が発生したり、表示されなかったりということが生じていました。この問題はこのリリースでは解決されています。
RTC9522	Interact 学習 API を呼び出す際に、テーブル駆動型のオファー属性を使用すると、NULL 値が正しく返されませんでした。これにより、学習 API のセッション・データが影響を受けていました。この問題はこのリリースでは解決されています。

問題 ID	説明
RTC8520	以前、1つのプロセス・ボックスで設定されているユーザー変数がフローチャートの別のプロセス・ボックスで参照されている場合に、複数の対話式フローチャートを実行すると、矛盾する結果がユーザーに表示されていました。このエラーは、1つのフローチャート実行でのユーザー変数の値がときどき同じフローチャートの次の実行に持ち越されていたために発生していました。この問題はこのリリースでは修正されています。

第 4 章 既知の問題

Interact 9.0.0 の問題点を以下の表にリストします。

問題点	問題 ID	説明
組み込み学習を使用している場合、Interact はすべての対話式チャンネルで最新の学習属性を使用する	該当なし	学習属性は、すべての対話式チャンネル間で定義されます。複数の対話式チャンネルに対して単一の Interact ランタイム・サーバーがある場合、Interact ランタイム・サーバーは最も新しく配置された学習属性を使用します。例えば、コール・センターのシナリオが学習属性 A、B、および C をトラッキングし、Web サイトのシナリオが学習属性 C、D、および E をトラッキングするとします。Web サイトの対話式チャンネルを更新する場合に、学習属性 C への変更が、コール・センターと Web サイトの両方に影響を与えます。
オーディエンス・レベルを削除すると、コンタクト履歴とレスポンス履歴のユーティリティが失敗することがある。	該当なし	コンタクト履歴とレスポンス履歴のモジュールは、UACI_CHRHAudMap にリストされるすべてのオーディエンス・レベルのデータを転送しようとしています。オーディエンス・レベルを削除するときは、UACI_CHRHAudMap テーブルから関連するすべてのエントリーを削除する必要があります。そうしないと、コンタクト履歴とレスポンス履歴のユーティリティが失敗します。
データベース・ロード・ユーティリティを使用するときに、DB2® が間違ったエラーを返すことがある。	該当なし	ロードが警告しかない状態で完了している場合に、データベース・ロード・ユーティリティがエラーを返すことがあります。例えば、列の値が列の幅を超えている場合は、ロードする前に切り捨てられます。このような場合は、再実行するためにディレクトリー名を変更する前に、データベース・ロード・ユーティリティのログ・ファイルをチェックして、レコードが挿入されていないことを確認してください。 db2loader.xxx.log ファイルの、特に Number of rows committed = xxx という行を確認することで、ロードされる行数を判断できます。
イベントの名前を変更したときに、チャンネル・イベント・サマリー・レポートが正しくないデータを表示することがある	該当なし	イベントの名前を変更すると、新しい名前がレポートに正しく表示されないことがあります。
非 ASCII のオーディエンス名を持つ DB2 ロードが動作しない	DEF054920、RTC7980	オーディエンス・レベルに非 ASCII 文字が含まれている場合、コンタクト履歴とレスポンス履歴のログに対する DB2 のファイル・ベース・ローダーはサポートされていません。この問題を回避するには、オーディエンス・レベルで ASCII 文字のみが使用されていることを確認するか、ファイル・ベース・ローダーの代わりにメモリー・キャッシュを使用してください。

問題点	問題 ID	説明
スナップショット・プロセスまたはメール・リスト・プロセスから非 ASCII 名が付いたデータベース表にエクスポートできない。	RTC10145	データをスナップショット・プロセスまたはメール・リスト・プロセスからエクスポートし、「データベース表」を「エクスポート先」オプションとして選択する場合に、新しい表に非 ASCII 文字を使用して名前を付けると、エクスポートが失敗します。また、エラー・コード 11506 も表示される場合があります。この問題を回避するには、エクスポート・データベース表に名前を付ける際に ASCII 文字のみを使用してください。
ロケールが英語でない場合に、永続的なユーザー定義フィールドをスナップショット・プロセスからエクスポートできない。	RTC11682	永続的なユーザー定義フィールドを作成するように選択プロセス・ボックスを構成し、そのプロセスを実行し、それをスナップショット・プロセス・ボックスへの入力として接続する場合に、スナップショット・プロセス・ボックスのスナップショットの「スナップショット・フィールド」リストから永続的なユーザー定義フィールドを選択できません。この問題は、ロケールが英語以外のロケールに設定されている場合にのみ発生します。
対話式チャネルの配置で SiteMinder のアクセスがサポートされない	DEF054926、 ENH11491	対話式チャネルの配置では、SiteMinder のアクセスはサポートされていません。Interact のランタイムの配置では、Marketing Platform データベースで明示的に作成されたユーザー ID とパスワードを使用する必要があります。
Campaign でのセッションとキャンペーンの所有者を変更すると、関連する対話式フローチャートと対話式セッションの動作が停止する	DEF055155、 RTC11348	Campaign のセッションまたはキャンペーンの所有権を変更すると、関連する対話式フローチャートと対話式セッションが Interact で動作しなくなります。
このリリースに IPv6 のサポートが含まれていない	DEF061723、 RTC11350	インターネット・プロトコル v6 (IPv6) の使用は、このリリースではサポートされていません。サポートされているのは IPv4 接続のみです。
対話方法を削除した後もキャンペーンを削除できない	DEF062936	<p>キャンペーンが関連付けられている対話方法を削除した後も、ユーザーがキャンペーンを削除できないことがあります。この状況のときに、ac_web.log ファイルに「DELETE ステートメントが REFERENCE 制約「iTrmtRuleInv_FK3」と矛盾します。この矛盾は、データベース「Automator_UC」、テーブル「dbo.UACI_TrmtRuleInv」、列「CellID」で生じています。(DELETE statement conflicted with the REFERENCE constraint "iTrmtRuleInv_FK3". The conflict occurred in database "Automator_UC", table "dbo.UACI_TrmtRuleInv", column 'CellID')」のようなメッセージが含まれていることがあります。</p> <p>この状況では、対話式フローチャートが配置解除されて削除されており、方法が削除されている場合であっても、キャンペーンは配置された方法の一部であるため、そのキャンペーンに対してレポート作成に使用される履歴データが存在するので、キャンペーンを削除することはできません。この問題については、今後のリリースで解決する可能性があります。</p>

問題点	問題 ID	説明
対話方法をフォルダーにコピーする間に例外が表示される	DEF063013、RTC9030	対話方法をコピーしようとしているときに、フォルダーを宛先として指定すると、「JDBC バッチ更新を実行できませんでした。ネストされた例外: org.hibernate.exception.ConstraintViolationException: JDBC バッチ更新を実行できませんでした (Could not execute JDBC batch update; nested exception is org.hibernate.exception.ConstraintViolationException: Could not execute JDBC batch update)」のようなエラー・メッセージが表示されます。本来は、コピーの宛先としてフォルダーではなくキャンペーンを指定する必要があることを示すエラーが表示されなければなりません。
いくつかのプロファイル・テーブル属性に NULL 値が含まれる場合に、 LearningAggregatorThread エラーがログに表示される。	RTC11509	Interact ランタイムで学習統合機能 (ステージング表からデータを読み取り、それをコンパイルし、テーブルに書き込んで、学習モジュールで使用できるようにするプロセス) を使用すると、UACI_OfferStatsTx テーブルに NULL 属性値が含まれる場合があります。状況によっては、学習統合プロセスで NULL 属性値が正しく処理されず、エラーが発生する場合があります。この問題は今後のリリースで解決されます。

第 5 章 既知の制約

Interact 9.0.0 での既知の制約を以下の表にリストします。

問題点	番号	説明
処理ルールのオファ어가 Interact のレポートで表示されない	該当なし	「このテンプレートから作成したオファ어를リアルタイム対話で使用できます」を選択し、オファ어・テンプレートを使用して作成したオファ어を選択しないと、Interact はレポート作成のための正しいデータを収集できません。
テスト実行の結果テーブルが Interact のテスト実行テーブルからドロップされない	該当なし	対話式フローチャートのテストを実行する場合、Interact は対話式フローチャートごとにテスト実行テーブルに 4 つのテーブルを作成します。これらのテーブルは、対話式フローチャートを削除するときに削除されません。
SOAP クライアントがスレッドを解放しない	該当なし	SOAP クライアントは、ソケットを閉じる代わりに、CLOSE_WAIT の状態のままにします。これは、Axis2 SOAP クライアントの既知の問題です。詳しくは、 http://issues.apache.org/jira/browse/AXIS2-2883 を参照してください。
対話式フローチャートのテスト実行を停止できない	該当なし	対話式フローチャートのテスト実行を停止する、または一時停止することができません。テスト実行は、データのサブセット (例: 数百行) で実行するよう設計されています。対話プロセスで、テスト実行のサイズを構成できます。詳しくは、「IBM Interact ユーザー・ガイド」を参照してください。
Interact の対話式フローチャートが Campaign のマクロのサブセットをサポートする	DEF057366、 ENH11494	設計では、対話式フローチャートは、バッチ・フローチャートで利用できるマクロのサブセットのみをサポートします (これらのみが選択可能になります)。対話式フローチャートの「選択」または「決定」プロセス・ボックスで、サポートされていないマクロ (「AGE between 1 and 18」の between 演算子など) を使用する場合に、構文を確認すると「関数または操作がサポートされていません。」というエラー・メッセージが表示されます。これは予期された動作です。
テスト実行が設計時にユーザー変数の値を変更しない	DEF030254	ユーザー変数を含む対話式フローチャートのテスト実行を行っているときに、変数の値が設計環境 (IBM Campaign) で変更されません。ランタイムでは、セッション名と値のペアを使用して、ユーザー変数の現行値を表示できます。
混成アーキテクチャーの分散キャッシュはサポートされない	DEF049665	Interact は、ランタイム環境のさまざまなインスタンスでオペレーティング・システムが混在して使用されているアーキテクチャー (Oracle を使用する UNIX のインスタンスや SQL Server を使用する Windows のインスタンスなど) で、分散キャッシュをサポートしていません。ETL 機能など、さまざまなコンポーネントをサポートするには、Interact でランタイム環境のすべてのインスタンスが同じタイプのオペレーティング・システムでなければなりません。
未加工 SQL のオプションが Interact のフローチャートでサポートされない	DEF049991	対話式フローチャートのプロセスで、式のタイプが「SQL(ID)」または「SQL(ID+ データ)」であるカスタム・マクロを使用すると、エラー 11324 になります。
ドイツ語の文字 ß に関する既知の制約	DEF051037	ドイツ語の文字エスツェット ß (ユニコード U+00DF) は、Interact ではサポートされていません。 <ul style="list-style-type: none"> オーディエンスがこの文字を含むテーブルにマップされていると、Interact の初期化が失敗します。 この文字を含む適切なセグメント名は、セグメントを対話方法に追加すると表示が不正確になります。

問題点	番号	説明
UACI_EligStat テーブルが、 effDateBehavior> によって除外される必要がある開始日を持つオファーをログに記録する	DEF054281	(effectiveDateBehavior + effectiveDateGracePeriodOfferAttr) から外れている開始日を持つオファーが、UACI_EligStat テーブルで適格なオファーとしてログに記録されています。 effectiveDateGracePeriodOfferAttr で指定されたパラメーターは動的でないため、effectiveDateGracePeriodOfferAttr に「Grace_Period」属性を含め、それがオファーに含まれている場合は、このパラメーターの値がオファーで変更される場合は常に、対話式チャンネルの再配置が必要です。
Interact ランタイム・サーバーの再始動で制約の状態およびメモリー内のキャッシュが失われる	DEF057040	Interact のランタイム・サーバーが何らかの理由で再始動されると、最新の制約の状態 (パフォーマンス上の理由からメモリーに保存されている) およびメモリー内のキャッシュが失われます。
複数のオファーの制約ルールが同じオファーのセットの 1 つの対話式チャンネルに追加される場合に、オファーの制約が予期したように動作しない	DEF057081	現在、Interact では、特定の配置のさまざまな時間間隔に対して独立して適用される複数の制約をサポートしていません。複数の制約に該当するオファーは、最も厳密な制約に従います。
(開始日やインターバルごとのオファーの最大数などの) 制約のパラメーターを変更すると、その制約を使用したオファーの提供方法が変わる	DEF057070、 DEF057076	設定を変更すると、いくつかの方法で制約の結果に影響を与える可能性があります。 <ul style="list-style-type: none"> 途中でオファーの制約の開始日を変更すると、カウンターがゼロにリセットされることがあります。これは、startTime が変更されると、インターバルが再計算され、別のインターバルが発生する可能性があることにより、数がリセットされる場合があるためです。 オファーの制約の開始日を前の日付に変更すると、「Interact の制約の状態 (Interact Constraint State)」ページの「このインターバルの現在の数 (Current count for this interval)」のデータが更新されません。開始日を変更されると、インターバルも再計算する必要があるため、この問題が発生します。制約の状態は、その最初の再計算の後で、正しく更新されます。 <p>制約のパラメーターが成果に与える影響について詳しくは、「IBM Interact ユーザー・ガイド」を参照してください。</p>
Interact API で getoffersForMultipleInteractionPoints 呼び出しを発行した場合に、トップレベルの属性の要件が受け入れられる属性が最大で 1 つである	DEF057693	例えば、対話式チャンネルでオファーをセットアップし、OfferType の値として「Bank Account」と「Insurance」を持つオファー属性を使用して getoffersForMultipleInteractionPoints() API 呼び出しを実行するとします。 適格なセグメントでは、3 つのオファーが割り当てられます。2 つのオファーが「Bank Account」というオファー・タイプを持ち、1 つのオファーが「Insurance」というオファー・タイプを持ちます。次の getoffersForMultipleInteractionPoints() API 呼び出しは、不正確な結果になります。 {DIP1,3,1,(2,Offertype=Bank account string) (1,Offertype=Insurance string)}
対話式フローチャートに未構成のプロセスが含まれる場合でも配置が完了する	DEF030956	対話式フローチャートのプロセスを未構成の状態にする構成の変更を行い、過去に対話式フローチャートを配置している場合に、対話式フローチャートが配置されます。未構成のプロセスを持つ対話式フローチャートは、配置されるべきではありません。

問題点	番号	説明
Marketing Platform のサイレント・モードでのインストールの後で、既存のインストーラーのプロパティ・ファイルが削除される	DEF042448	以前のインストールが UI モードで行われている場合に、サイレント・モードで Platform をインストールすると、 <code>installer.properties</code> ファイルと <code>installer_uep.properties</code> ファイルが削除されます。
GUI から保存しようとしたときに WebConnector がデフォルトの構成を行わない	DEF052958	WebConnector は、GUI から保存しようとしたときに、フィールドにデフォルト値を設定しません。
2 つのスキーマが存在するときに、テスト実行が最初のスキーマからの結果を表示する	DEF054970、 DEF055064	複数のスキーマが存在するときに、テスト実行の結果は、アルファベット順で最初に来るスキーマからのものになります。
メール・リスト・プロセスが構成されるとフローチャートの検証が失敗する	DEF055021	メール・リスト・プロセスを持つバッチ・フローチャートから作成されたフローチャート・テンプレートが対話式フローチャートに追加された場合、「フローチャートの検証」による検証が失敗します。「フローチャートの検証」に、「フローチャートの構成にエラーは検出されませんでした。」と表示されます。この問題を回避するため、対話式フローチャートにバッチ・フローチャート・テンプレートを含めないでください。
モデルから学習属性を削除すると、その属性の履歴データが削除される	DEF058996	これは、学習機能の自己メンテナンスである、不要なデータの消去の一部として発生します。削除された属性をもう一度追加する状況で、学習システムは (古い履歴データを使用するのではなく) その属性についてもう一度最初から学習します。属性の履歴をシステムに削除させる代わりに保持する場合は、履歴をグローバル設定に追加して、その属性を使用しない学習モデルを作成することでその履歴の使用を回避し、対話式チャネル・レベルで割り当てます。
オファ어의パラメーター化で「日付タイプ」フィールドがサポートされない	RTC7354	「オファ어의パラメーター化」機能を使用しているときにテーブル駆動型のオファ어を使用する場合、オファ어属性に間違った日付値が表示されます。この問題を回避するため、パラメーター化されたオファ어で日付フィールドを使用しないでください。

第 6 章 以前のリリースの新機能

このセクションでは、IBM Interact の以前の 8.x リリースの変更を、参照目的で記載しています。これらの機能の使用の詳細な手順については、Interact の資料を参照してください。

バージョン 8.6.0 の新機能と変更

製品の推奨に対する Interact の IBM Digital Recommendations との統合

Interact は、パーソナライズを提供するための高度なアプローチと IBM Digital Recommendations のスケーラブルな製品の推奨ソリューションを組み合わせ、顧客対話で最適なオファーと製品情報を提供できるようになりました。

現在 Web ページをカスタマイズして、オファーを訪問者に提示するよう最初に Interact を呼び出し、それから API 呼び出しを使用して製品カテゴリー ID を Digital Recommendations に送信し、そのオファーに対する最も一般的な製品の推奨を取得します。例えば、Interact が特定の訪問者に対してベスト・オファー（すべての電気製品を 10% オフ）を提供するページを設定する一方で、Digital Recommendations はそのオファーに対して最適な製品の推奨（特定のカテゴリー ID に対して最も人気のある家庭用電気製品）を提供します。

追加情報については、「*IBM Interact 管理者ガイド*」、および `/<Interact_home>/samples/IntelligentOfferIntegration` にインストールされている、デモおよび自分の Web ページの開始点として利用できるサンプル・アプリケーションを参照してください。

(ENH11607)

新しい配置の管理とバージョン管理

対話式チャネルでは、配置情報は別の「配置」タブに移動しました。「配置」タブは、配置の管理のために、次の機能を含む拡張されたユーザー・インターフェースを提供します。

- **アクティブな配置を表示して配置解除します。**「アクティブな配置」ビューによって、現在の配置の即座の情報を提供し、必要に応じて選択した配置を配置解除できます。
- **保留中の変更を表示します。**「保留中の変更」ビューは、配置のマークが付けられているがまだ配置されていない変更を表示でき、必要に応じて対象となるサーバー・グループに変更を配置したり、グローバル設定のみを配置したりできます。
- **以前の配置をロールバックします。**「配置履歴」セクションでは、以前のバージョンの配置を選択して再配置したり、以前のコンポーネント（「フローチャート」タブと「方法」タブ）を再ロードして変更したりできます。

- 以前の設計時間コンポーネントを再ロードして変更します。「配置」タブを使用して、以前の配置から対話式チャンネル、フローチャート、および対話方法を再ロードし、表示または変更してから再配置できます。
- ビューをカスタマイズします。配置履歴リストをフィルターして、特定のサーバー・グループへの配置以外をすべてフィルターで除外したり、完了した配置を除外するなど、必要な情報のみを表示します。また、特定の列や、列の複数の組み合わせのリストをソートして、完全に希望どおりに配置情報を表示できます。

(ENH11608)

外部の学習の拡張

これまでのリリースでは、Interact の作成済みの学習は、カスタムの学習要件と一緒に使用できませんでした。現在、Interact の作成済みの学習の実装の選択機能に、API 呼び出しの新しいセットを経由してアクセスして、外部の学習アルゴリズムで組み込みの学習方法を使用できるようになりました。追加の技術的な詳細については、[/docs/learningOptimizerJavaDocs](#) にインストールされている Javadoc を参照してください。(ENH11609)

プロファイル・データ・サービス: EXTERNALCALLOUT を経由して取得される階層プロファイル・データ

現在、EXTERNALCALLOUT API 機能を使用して、階層プロファイル・データを Interact ランタイム・セッションにインポートできるようになりました。これにより、Web サービスなどさまざまなソースからデータをプルできます。(ENH11610)

「対話方法」タブの拡張

「対話方法」タブが、機能を追加し使いやすさを向上するために再設計されました。以下のような改良点があります。

- **新しいビュー・オプション。** リストのフィルタリング、およびセグメントやゾーンの複数選択によって、多数のルール、オファー、ゾーン、セグメントなどを非常に簡単に管理できるようになりました。
- **多数の処理ルールに同時にオプションを適用します。** リストの複数のセグメントやゾーンを選択して、同じセットの拡張オプション、学習モデルのカスタマイズ、およびパラメーター化されたオファー属性を、選択された処理ルールすべてに同時に割り当てることができます。
- **多数の処理ルールを同時に有効化、無効化、削除します。** 同じ選択機能によって、複数の処理ルールを単一ステップで有効化、無効化、および削除できます。
- **ドラッグ・アンド・ドロップ・インターフェース。** ドラッグ・アンド・ドロップ・インターフェースが拡張され、セグメント、オファーの他にゾーンをルールに追加できるようになりました。また、複数の項目を同時に選択して、ルールのリストにドラッグすることもできます。
- **新しい表示:** セグメントごとやゾーンごと、および追加された情報やフィルタリングによって、処理ルールを表示できるようになりました。
- 「対話方法のコピー」アイコンを使用して、対話方法を別のキャンペーンにコピーできる機能が追加されました。

- 不要な変更を防ぐために、自動保存機能が削除されました。現時点では、「方法」タブで変更を明示的に保存するか、キャンセルして不要な変更を破棄する必要があります。

(ENH11611)

パラメーター化されたオファ어의擴張

オファ어의パラメーター化を使用して、個人とセッションに固有の属性を使用し、一般のオファ어를個人用にパーソナライズできます。オファ어가セグメントとゾーンにマップされた後で、「方法」タブでパラメーター化されたオファ어를処理ルールの一部として構成できるようになりました。パラメーター化されたオファ어의値は、処理ルールに固有です。

新しい「方法」タブの機能を使用すると、複数の処理ルールを選択して、共通パラメーターを同時に変更できます。

また、グローバル・オファ어、ホワイト・リスト、および OffersBySQL のテーブルを使用して、パラメーター化された値を設定することもできます。

(ENH11612)

レポート作成の擴張

このリリースでは、オプションの Interact Reports Pack を使用している場合は、次のレポートの擴張が提供されます。

- **オファ어別のゾーン・パフォーマンス・レポート** このレポートは、「分析」>「キャンペーン分析」を選択して、「Interact レポート」をクリックし、「ゾーン・パフォーマンス」をクリックすると利用でき、オファ어가ゾーンごとにどのように実行されているかを確認できます。
- **セル・パフォーマンス・レポート・フィルター**。Interact のセル・パフォーマンス・レポートが擴張され、選択した項目にのみ実行することが可能になり、対話方法のレスポンス率の向上に役立ちます。この擴張によって、特定のセル・コードのデータをフィルタリングでき、元のレポートより絞り込むことができます。

(ENH11254、ENH11253)

セキュアな RMI プロトコル

現在、Interact は JMX の統計情報を取得するための方法を、RMI と JMXMP の 2 種類提供しています (Marketing Platform の構成から構成可能)。これまでは、JMXMP しかセキュアなアクセスを有効化できませんでした (JMX の統計情報を取得するには、Marketing Platform のユーザー名とパスワードが必要です)。このリリースでは、そのレベルのセキュリティーが、RMI に対してもサポートされています。

Interact の「モニター」ページの Marketing Platform の構成設定で、protocol を RMI に、enableSecurity を TRUE に設定することによって、セキュアな RMI を構成できます。

(ENH11488)

バージョン 8.5.0 の新機能と変更

Campaign のバッチ・フローチャートに追加された「インタラクト・リスト」プロセス・ボックス

新しいプロセス・ボックスが Campaign のバッチ・フローチャートに追加され、Interact ランタイム・サーバーによって提供されるオファー候補を含むテーブルをユーザーが簡単に定義できるようになりました。「インタラクト・リスト」という新しいプロセス・ボックスは、「コール・リスト」プロセス・ボックスまたは「メール・リスト」プロセス・ボックスと似た方法で動作します。バッチ・フローチャートで「インタラクト・リスト」プロセス・ボックスを使用して、ランタイム・サーバーからお客様に提供するオファーを決定します。これには以下のような選択肢があります。

- 個人レベル（「ブラックリスト」）でのオファー抑止
- 個人レベル（「ホワイト・リスト」またはスコア・オーバーライド）でのオファーの割り当て
- オーディエンス・レベル（グローバル・オファーまたはデフォルト・オファー）でのオファーの割り当て
- カスタム SQL 照会によるオファーの割り当て

対話式キャンペーンをデプロイすると、ランタイム・サーバーはこのプロセスから出力にアクセスします。バッチ・フローチャートには「インタラクト・リスト」プロセス・ボックスの複数のインスタンスが含まれている可能性があることに注意してください。(ENH10375)

拡張された学習 (ENH10650、ENH10651、ENH10652、ENH10654)

Interact の学習機能が、次の方法で拡張されました。

- Interact に既に存在するグローバル学習モデルの他に、学習を有効にして、学習属性を対話式チャンネル、ゾーン、およびルール・グループのレベルでカスタマイズできます。これらの各レベルは、カスタム学習モデルの独自のセットを持つことができます。この機能は、「自習」とも呼ばれます。学習のグローバル設定は、グローバル、対話式チャンネル、ゾーン、ルール・グループの順序で継承され、後続の各レベルに、継承された設定を追加またはオーバーライドするオプションがあります。
- 学習の監視モード。

これまでは、学習が特に有効になっていないと、Interact が学習の統計情報を収集することはできませんでした。このリリース以降、学習の監視モードによって、オファーの調停に Interact の学習を使用していない場合でも、事前定義された（グローバル・モデルを含む）学習モデルに基づいて、Interact が学習の統計情報を収集できるようになりました。

- 自習の学習レポート(ENH10653)

新しいレポートが追加され、前述の新しい自習モデルをサポートするようになりました。現在、マーケティング担当者は、学習モデル・レポート分析レポートを Interact 設計時間環境で実行して、指定された期間の 2 つの学習モデルのパフォーマンスを比較できるようになりました。

Web コネクタ (ENH09370)

Web コネクタによって、リアルタイム・オファーのパーソナライズのために Web ページでの Interact への呼び出しを有効化でき、低レベルの Java™ または SOAP の Interact サーバーへの呼び出しを実装する必要がありません。Web コネクタは、オファー・アービトレーション、プレゼンテーション、およびコンタクトレスポンス履歴を、次の 2 つの主要なプロセスによって管理します。1 つはページのロードで、パーソナライズされたオファーがある Web ページを提供し、もう 1 つはオファーの閲覧で、オファーの閲覧を取得して、指定されたランディング・ページにリダイレクトします。

Web ページのロード時に、埋め込まれた JavaScript コードが Web コネクタへのリンクを生成し、Interact API を使用してパーソナライズされたオファー・リストを返し、次に必要に応じて HTML 形式などのマークアップの断片として、Web ページに追加されます。ユーザーがリンクをクリックすると、Interact を使用する Web コネクタに渡され、適切なターゲット URL が判断されてユーザーがそこにリダイレクトされます。

Message Connector (ENH10655、ENH10656、ENH10657)

Interact Message Connector により、E メール (またはその他の電子的なメディア) のオープン時と閲覧時に、オファーのパーソナライズのために Interact を呼び出し、 タグ (オープン時に Eメールのパーソナライズされたオファーを取得する) と <href> タグ (閲覧を取得してユーザーをランディング・ページにリダイレクトする) を通じてオファー・アービトレーションとコンタクトレスポンス履歴を判断します。

その他の制約 (ENH10646、ENH10647)

オファー制約機能によって、組織はオファーの印象の配布を制限して管理し、オファーまたはオファーのコレクションを定義された期間に提示できる回数を制限できます。例えば、事前定義された印象の割り当て量 (1日に一定数の印象など) に達した後にオファーを抑制したり、一定期間にオファーの印象を均等に配信したりすることができます。

オファーの重複解消 (ENH10649)

オファーの重複解消ポリシーによって、Interact が複数のインタラクション・ポイントの要求の重複オファーを削除するときの効率が向上します。これを達成するために、新しい呼び出しが `getOffersForMultipleInteractionPoints` という Interact API に追加され、指定されたインタラクション・ポイントのリストを測定するオファーのリストを取得します。また、API 呼び出しは、Interact サーバーが返されたリストへの重複解消を適用する必要があるかどうかも指定します。

Interact でのパフォーマンスの拡張

すべての IBM Interact で、パフォーマンスの拡張が多数実装され、その中には次の領域のいくつかが含まれます。

- コンタクト履歴のセッションのキャッシュや、その他のファイル・ベースのキャッシュの書き込み (ENH10959、DEF059773、DEF059774)

- ETL 照会内の重複するレスポンス履歴のエントリーの処理の効率化 (DEF055886)
- 学習でのメモリー処理の向上 (DEF059772)
- 一般的な学習の集計処理の効率化 (DEF057236)
- OfferBySQL パフォーマンスの拡張 (DEF055126)

バージョン 8.2.0 の新機能と変更

オファーのマーケットプレースの拡張

Interact 8.2.0 では、多数のオファーの処理をサポートする次の拡張が行われています。

- 必要なオファー候補のセットを取得するために SQL 照会を使用する機能。
OffersBySQL によって、実行時にオファー・リストまたはオファーが書き込まれた 1 つ以上のテーブルで照会を実行するようユーザーが SQL を構成できます。
- オファー候補の配置のための新しいコマンド・ライン・ツール。キャンペーンのバッチ・フローチャートを定期的に行うよう構成できます。フローチャートの実行が完了すると、OffersBySQL テーブルのオファーの配置を初期化するためのトリガーを呼び出すことができます。

OffersBySQL 機能の使用方法

OffersBySQL 機能を使用する基本的なステップは、次のとおりです。

1. フォルダーやオファー・リストのオファーを編成します。
2. キャンペーンのバッチ機能、または外部 ETL プロセスを使用して、UACI_ICBatchOffers テーブルに、オファー候補の最終リストのデータを設定します。
3. トリガーを使用して、対話式チャンネルを配置します。
4. ランタイム側では、次のステップを実行します。

構成 `Interact/profile/audienceLevels/<AudienceLevel>/offers By Raw SQL` の下で SQL テンプレートを作成することにより、SQL が呼び出されるよう構成します。

- SQL には、訪問者のセッション・データ (プロファイル) の一部になっている変数名への参照が含まれている場合があります。例えば、「`select * from MyOffers where category = ${preferredCategory}`」は `preferredCategory` という名前の変数が含まれているセッションに依存します。
- SQL には、上記のステップ 2 で生成されたオファー・テーブルに照会を実行するよう構成される必要があります。

SQL の実行は、offersBySQL 機能が有効になっている場合に、startSession の各呼び出しで行われます。

getOffers の各呼び出しで実行を発生させるために、postEvent を呼び出ししてから、パラメーター UACIQueryOffersBySQL を 1 に設定して getOffers を呼び出すことがあります。getOffers の呼び出し (および後続のすべての getOffers) が、SQL を実行します。

別の SQL を実行するには、パラメーター `UACIOffersBySQLTemplate` の値を、希望の SQL テンプレートに設定します。

コマンド・ライン・ツールについて

コマンド・ライン・ツール (`runDeployment.sh/.bat`) は、Interact の設計時間インストール・ディレクトリー `tools/deployment` の下にあります。スクリプトの使用方法は簡単です。各対話式チャネル/サーバー・グループの配置の組み合わせに `runDeployment <propertiesFile>` を使用します。

`tools/deployment` フォルダで入手できる `deployment.properties` というサンプル・プロパティー・ファイルで、指定可能なすべてのパラメーターについて概説しています。

新規構成パラメーター

次の新しい構成パラメーターが Interact 8.2 で導入され、OffersBySQL 機能をサポートします。

表 1. 新しい設計時構成パラメーター

パス名	説明	デフォルト
<code>Interact/whitelist/<audienceLevel>/offersBySql/defaultCellCode</code>	OffersBySQL テーブル内のセル・コード列に NULL 値が入っている (または、セル・コード列が完全に存在しない) 任意のオファーに使用する、デフォルト・セル・コード。この値はセル・コードとして有効な値にする必要があります。	なし

表 2. 新しいランタイム構成パラメーター

パス名	説明	デフォルト
<code>profile/audienceLevels/<AudienceLevel>/offers By Raw SQL/enableOffersByRawSQL</code>	このオーディエンス・レベルに対して offersBySQL 機能を有効にするブール値のフラグ。	FALSE
<code>profile/audienceLevels/<AudienceLevel>/offers By Raw SQL/cacheSize</code>	キャッシュのサイズ。OfferBySQL 照会の結果の保管に使用されます。注: 照会の結果がほとんどのセッションに対して一意の場合、キャッシュを使用すると悪い影響が出る可能性があります。	-1 (オフ)

表 2. 新しいランタイム構成パラメーター (続き)

パス名	説明	デフォルト
profile/audienceLevels/<AudienceLevel>/offers By Raw SQL/cacheLifeInMinutes	キャッシュの内容が古くなるのを避けるために、システムがキャッシュを消去するまでの分数。	-1 (オフ)
profile/audienceLevels/<AudienceLevel>/offers By Raw SQL/defaultSQLTemplate	使用する SQL テンプレートの名前 (API で指定されていない場合)。	なし
profile/audienceLevels/<AudienceLevel>/offers By Raw SQL/<SQLTemplate>/name	SQL テンプレートの名前。	なし

新しい距離マクロ

IBM Campaign と IBM Interact の両方で利用できる新しい距離マクロは、2 つの地理的な地点の、緯度および経度の座標の 2 つのペアが提供されている場合に、その間の距離の計算をサポートします。詳しくは、「*IBM EMM のマクロ・ユーザー・ガイド*」を参照してください。

ステージング・テーブルからレコードを取り出す場合に JDBC fetchSize を設定する機能

新しい構成パラメーターの fetchSize が追加され、ステージング・テーブルからレコードを取り出すときに JDBC fetchSize を設定できるようになりました。

Marketing Platform の構成マネージャーのパラメーターのパスは、「Affinium | Campaign | partitions | partition1 | Interact | contactAndResponseHistTracking | fetchSize」です。

8.2 のインストールでは、このパラメーターが構成に自動的に追加されます。

特に Oracle データベースでは、この設定は、ネットワークの往復ごとに JDBC が取得する必要があるレコード数に合わせて調整してください。100K 以上の大きな規模の場合には、10000 で試行してください。この値は大きくしすぎないように注意してください。使用する値が大きすぎると、メモリーの使用量に影響するのに対し、効果はほとんどありません。

Interact のコンタクト履歴とレスポンス履歴の ETL スクリプトの拡張

Interact 8.2.0 では、次の拡張が行われました。

1. 新しい構成プロパティ maxJDBCFetchBatchSize を使用して、ETL に対して大きなバッチ・サイズを指定できる機能。

CH/RH レコードは、Interact ランタイム・データ・ソースから、maxJDBCFetchChunkSize プロパティで指定したサイズのチャンクで読み取られ、Campaign のデータ・ソースに書き込まれます。

例えば、1 日に 250 万個のコンタクト履歴レコードを処理するには、maxJDBCFetchBatchSize を 250 万より大きな数に設定して、1 日分のレコード

がすべて処理されるようにする必要があります。maxJDBCFetchChunkSize と maxJDBCInsertBatchSize は、それぞれ 50,000 と 10,000 といった、より小さい値に設定する必要があります。翌日のレコードの一部も処理されますが、翌日まで保持されます。

2. ETL の実行をスケジュール設定する機能

ETL を 1 日 1 回、時間枠を指定して実行する機能を持つオプションが利用できるようになりました。ETL は、指定された時間間隔の中で開始され、最大で maxJDBCFetchBatchSize を使用して指定された数のレコードを処理します。

3. プロセスのコンタクト履歴とレスポンス履歴のレコードを保持するオプション

プロセスのコンタクト履歴とレスポンス履歴のレコードを保持するオプションを利用できるようになりました。

4. ETL の完了通知

ETL が完了したときに実行するスクリプトへの絶対パスを指定できるようになりました。4 つの引数 (開始時刻、終了時刻、処理された CH レコードの合計数、および処理された RH レコードの合計数) が完了通知スクリプトに渡されます。開始時刻と終了時刻は、1970 年から経過したミリ秒数を表す数値です。

注: ETL の実行時間が 24 時間を超過し、次の日の開始時間にかかる場合は、その日の実行はスキップされ、翌日のスケジュールされている時間に実行されます。例えば、ETL が 午前 1 時から午前 3 時の間に実行されるように構成されている場合に、月曜日の午前 1 時に処理が開始され、火曜日の午前 2 時に完了すると、本来火曜日の午前 1 時にスケジュールされていた次の実行はスキップされ、次の ETL は水曜日の午前 1 時に開始されます。

注: ETL スケジューリングは、夏時間調整による変更には対応していません。例えば、午前 1 時から午前 3 時までの間に実行するようにスケジュールされている ETL は、夏時間調整による変更があると、午前 0 時または午前 2 時に実行される可能性があります。

オファ어의開始日が Interact で考慮されるようになる

2 つの新しい構成パラメーターが追加され、オファ어がある開始日の動作を管理できるようになりました。どちらも Marketing Platform の構成マネージャーの次のパスにあります。

Affinium > Interact > offerServing

表 3. 開始日の変更の要約

パラメーター名	説明
effectiveDateBehavior	<p>このパラメーターは、すべてのオファーに影響を与えるグローバル構成です。デフォルトでは 0 に設定されています (開始日を使用します)。</p> <p>指定できる値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • -1 -- 開始日を無視します (この拡張の前の動作と同等です)。 • 0 -- 開始日を使用します (デフォルト) • >0 -- 猶予期間 (現在の日付に追加された日数。開始日が計算された日付 (現在の日付 + 猶予期間) より大きい場合は、オファーがフィルタリングで除外されます。)
effectiveDateGracePeriodOfferAttr	<p>このパラメーターによって、テンプレートから作成された各オファーが、異なる猶予期間の値を持つことができます。オファーを提供できる開始日までの日数を設定する、カスタム・オファー属性にマップします。</p> <p>値はオファー・テンプレートで作成されたカスタム属性の名前であり、デフォルトでは空白になるか、値が指定されません。</p> <p>effectiveDateGracePeriodOfferAttr が設定されていると、Interact は各オファーで指定された属性を探します。指定された属性がオファーに含まれていると、Interact は値を読み取り、猶予期間を判断します。</p> <p>オファーに指定された属性が含まれていない、または effectiveDateGracePeriodOfferAttr が設定されていないと、Interact は effectiveDateBehavior の設定を使用します。</p> <p>effectiveDateGracePeriodOfferAttr を設定するには、次のようにします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Campaign でカスタム・オファー属性を作成します。 2. effectiveDateGracePeriodOfferAttr の値を新しいカスタム・オファー属性の名前に設定します。 3. カスタム・オファー属性を、猶予期間を指定する各オファー・テンプレートに割り当てます。 4. オファー・テンプレートから作成されたオファーで、現在の日付に追加される日数にこの属性を設定して、猶予期間として許可します。

第 7 章 IBM Interact Reports Package について

Interact Reports Package は、対話式チャネルやその他の Interact 固有のメトリックに基づいて、キャンペーン、オファー、およびセルのパフォーマンスをトラッキングするために使用できるレポートのスキーマを提供します。

Reports Package には、次の機能が含まれています。

- インストール中に Marketing Platform に登録されるスキーマとスキーマ・テンプレート。製品のレポート作成スキーマを表す属性とメトリックについて記述し、次のものが含まれます。
 - レポート作成スキーマの基本となる 5 つの基本スキーマ (カスタム属性なし)
 - 新しいスキーマの作成に使用できる 1 つのスキーマ・テンプレート
- IBM Cognos® BI Server に配置される IBM Cognos のカスタマイズ可能なモデルとレポート
- IBM Cognos のモデルとレポートについて解説する参考資料

Report Package の参考資料は、PDF 版の製品資料がポストされる文書サーバーでは入手できなくなりました。Marketing Platform がインストールされているマシンにレポート作成スキーマをインストールすると、Report Package の参考資料にアクセスできます。参考資料は、Report Package のインストール済み環境にある、Cognos10 ディレクトリーのサブディレクトリーにあります。

Interact レポートは、以下の 3 つのデータ・ソースからデータを取得します。

- Interact システム・テーブル (設計環境)
- Interact 学習データベース
- Interact ランタイム・データベース

レポート作成スキーマ

スキーマは以下のとおりです。

- Interact ビューは、Interact 設計環境のシステム・テーブルの標準属性ビューを提供します (キャンペーン、オファー、セル、処理ルール・インベントリーなど)。
- Interact パフォーマンスは、オファー、セル、セグメント、インタラクション・ポイントといったその他のディメンションの組み合わせで、ある期間 (時間/過去 24 時間、または日/過去 7 日間) でのキャンペーンまたは対話式チャネルのレベルで開始されたパフォーマンスの測定に使用されます。メトリックはコンタクト・メトリックとレスポンス・メトリックに分けられます。
- 配置履歴は、対話式チャネルの配置に関する情報を提供するレポートによって使用されます。
- Interact ランタイム・ビューは、ランタイム・システム・テーブルから資格統計、デフォルト値の統計、およびイベント・アクティビティを取得するレポートによって使用されます。

- 資格統計は、ディメンション、対話式チャンネル、インタラクション・ポイント、オファー、セル、および時刻というディメンションによって集計されます。

デフォルト値の統計は、対話式チャンネル、インタラクション・ポイント、およびセグメントというディメンションによって集計されます。

イベント・アクティビティは、時間と日によって集計されます。

- Interact ラーニング・ビューは、Interact 学習データベースからデータを取得するレポートによって使用されます。

テンプレート

パッケージには、Interact パフォーマンス・スキーマのテンプレートが含まれるため、追加のオーディエンス・レベルに対して追加のパフォーマンス・レポート・スキーマを作成できます。

レポート

キャンペーンの「分析」セクションとキャンペーンの「分析」タブから利用可能なレポートは、次のとおりです。

- チャンネル配置履歴
- 時間経過に伴う対話式セル・パフォーマンス
- オファー別の対話式セル・パフォーマンス
- 時間経過に伴う対話式オファー・パフォーマンス
- セル別の対話式オファー・パフォーマンス
- 対話式オファー学習の詳細
- 対話式セルの上昇分析
- 時間経過に伴うチャンネル学習モデル・パフォーマンス
- オファー別のゾーン・パフォーマンス・レポート

対話式チャンネルの「分析」タブから利用できるレポートは、次のとおりです。

- チャンネル配置履歴
- チャンネル・イベント・アクティビティ・サマリー
- チャンネル・インタラクション・ポイント・パフォーマンス・サマリー
- 対話式セグメントのリフト分析
- 時間経過に伴うチャンネル学習モデル・パフォーマンス
- オファー別のゾーン・パフォーマンス・レポート

利用可能なダッシュボード・レポートは、次のとおりです。

- インタラクション・ポイント・パフォーマンス

IBM 技術サポートへの連絡

文書を参照しても解決できない問題があるなら、指定されているサポート窓口を通じて IBM 技術サポートに電話することができます。このセクションの情報を使用するなら、首尾よく効率的に問題を解決することができます。

サポート窓口が指定されていない場合は、IBM 管理者にお問い合わせください。

収集する情報

IBM 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質の要旨。
- 問題発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細な記録。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 「システム情報」の説明に従って入手した、製品およびシステム環境に関する情報。

システム情報

IBM 技術サポートに電話すると、実際の環境に関する情報について尋ねられることがあります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」ページで入手できます。そのページには、インストールされている IBM のアプリケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページは、「ヘルプ」>「バージョン情報」を選択することにより表示できます。「バージョン情報」ページを表示できない場合、どの IBM アプリケーションについても、そのインストール・ディレクトリーの下にある `version.txt` ファイルを表示することにより、各アプリケーションのバージョン番号を入手できます。

IBM 技術サポートのコンタクト情報

IBM 技術サポートとの連絡を取る方法については、IBM 製品技術サポートの Web サイト (http://www-947.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request) を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
170 Tracer Lane
Waltham, MA 02451
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

できます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

プライバシー・ポリシーとご利用条件に関する考慮事項

IBM ソフトウェア製品 (Software as a Service ソリューションを含む) は、お客様の使い勝手の向上や、お客様とのコミュニケーションを円滑に進めるための調整、あるいはその他の目的で、Cookie (クッキー) やその他のテクノロジーを使用して、製品の使用状況の情報を収集することがあります。Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザに送信できるデータで、お客様のコンピューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできません。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBM の使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関する方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件 (例えば、プライバシー・ポリシー) への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者のコンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置することを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明すること、および(3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイト

への閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような意図による、クッキーを含めたさまざまなテクノロジーの使用に関する情報は、「IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント」(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja>) の『クッキー、Web ビーコン、その他のテクノロジー』の節を参照してください。



Printed in Japan